

---

日本心理療法統合学会 第1回記念大会

# 心理療法統合の現在

プログラム・抄録集

会期

2021年3月6日（土）・7日（日）

URL <http://www.jspti.net>

---

---

## 大会長挨拶

日本心理療法統合学会第1回記念大会 大会長

日本心理療法統合学会 理事長 福島哲夫

---

日本心理療法統合学会の記念すべき第一回大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。本学会は2019年11月に設立されました。元々は2020年2月に第一回大会開催を目指していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のためやむなく延期となりました。また、その関連で2019年度の学会活動はほとんどできませんでしたので、2019年度の年会費と大会参加費はすべて1年繰り延べとさせていただきます。

この学会の前身としては2005年からの「心理療法統合を考える会」(関東地方)、2010年からの「関西折衷的心理療法研究会」(関西地方)があります。そして2014年からはこれら2つの研究会の交流会である「東西の会」を年1回開きながら、研究と実践を重ねてきました。

そして、本学会はいよいよ2019年に以下のような目的をもって、設立されました。

1. 心理的支援に対する社会的ニーズに応えること
2. 各種支援法の統合を目指し、また専門家が集うハブの役割を果たすこと
3. (より広い意味での) Evidence Based Practice を念頭に置き、心理的支援の実証性を担保すること
4. 心理的支援者の初期教育・生涯教育の場を提供すること

そして学会のあるべき姿としては、以下のようなあり方をめざしています。

1. 「人間の多様性」と、それに向き合う心理療法のもつ多様性への敏感さと誠実さをめざした集まりであること
2. その結果、民主的態度を貫き、それがセラピストとクライアントの間にも、セラピスト同士の間にも、そして学会運営にも反映されること
3. しかしこれは「何でもあり」ではなく例えば「排他主義」と「権威主義」は受け入れない
4. 排他主義や権威主義なしに「開拓」と「熟達」、そして「蓄積」という豊かな実りをめざす

このような理念のもと本学会を設立、運営させていただいています。

この度は、このような学会をぜひ、一緒に育てていくべく第1回大会にコミットしていただけますようお願い申し上げます。

第1回記念大会 大会長 福島哲夫

---

---

## 大会プログラム

### 第1日目

10:00	トライアルセッション (ZOOM接続テスト)
11:00	総会 (会員限定) リアルタイム配信 (ZOOM)
12:00	休憩
13:00	基調講演 オンデマンド
14:00	
14:10	公開SV (会員限定) リアルタイム配信
16:10	
16:20	シンポジウム オンデマンド+リアルタイム配信 (ZOOM) 含、ディスカッション
18:20	
18:30	懇親会

総会では活動などの報告を行います。会員限定です。奮ってご参集ください。

基調講演「大きな統合と小さな統合－ささやかでかけがえのない心理療法を目指して－」

公開SV「異なる立場からの事例検討」

会員限定です。秘密保持義務を厳守のもと、ご参加いただけますようお願い致します。

シンポジウム「医療・教育・産業領域における統合的アプローチ」

ブレイクアウトセッションを利用した少人数のグループワークを予定しております。

懇親会では、記念すべき第1回参加者が集い、親交を深めることを目的に実施致します。

ZOOMを用いた懇親会ということで皆様のご協力も必須です。いろいろなお話に花が咲かせられるよう、学会役員一同お待ち申し上げます。

---

---

## 第2日目

10:00	ワークショップ 1 オンデマンド+リアルタイム配信 (ZOOM) 含, ディスカッション
11:30	
11:40	会員ランチ交流会
12:40	ワークショップ 2 オンデマンド+リアルタイム配信 (ZOOM) 含, ディスカッション
14:10	
14:20	ワークショップ 3 オンデマンド+リアルタイム配信 (ZOOM) 含, ディスカッション
15:50	
16:00	研究発表 オンデマンド+リアルタイム配信 (ZOOM) 含, ディスカッション
18:00	

WS1「ポール・ワクテルによる心理療法統合：循環的心理力動アプローチ（統合的關係心理療法）」

WS2「技法折衷アプローチの方法と実際」

WS3「働く人への統合的カウンセリング—事例とワークで学ぶ、欲求・願望の汲み取り方」

研究発表は、会員から各種研究の成果をご発表いただきます。

ランチ交流会では、懇親会に続き、参加者のみなさんで集います。

---

---

## 基調講演

「心理療法統合の未来に向けて—小さな統合と大きな統合（ささやかで、かけがえのない心理療法を目指して）—」

理事長・第一回大会会長 福島哲夫

形式：オンデマンド，時間：13：00～14：00

---

本学会の設立の経緯と趣旨，そしてこの学会の望ましい在り方を解説し，さらに「心理療法統合とはどのような姿勢と実践のことを指すのか」というテーマに関して，「小さな統合と大きな統合」という視点から解説する。さらに心理療法統合の未来にかかわるテーマとして「心理療法統合の立場におけるトレーニング」について，欧米の現状と日本の実践例に触れながら今後のあるべき方向性を探る。

具体的には以下のような項目立てによる講演となる。

1. はじめに—本学会設立の経緯と趣旨
2. 心理療法統合ハンドブックの刊行に寄せて
3. 心理療法統合とは
4. 小さな統合と大きな統合—ささやかでかけがえのない心理療法をめざして—
5. 思考実験『鬼滅の刃の竈門炭治郎がセラピーを受けに来たら』
6. 閑話休題：映画「ファーストラヴ」監修秘話
7. 心理療法統合の未来に向けて—とくにトレーニングについて

挿入話題としての「5.」は，心理療法統合の具体例の思考実験として，人気アニメ「鬼滅の刃」の主人公の竈門炭治郎が，20代になって抑うつを訴えて来談したら，どのように対応するのが心理療法統合の立場と言えるかを解説する。

また，「6.」においては映画「ファーストラヴ」の監修を引き受けた立場から，その監修秘話と心理療法統合から見た，この映画の主人公の活動とそのあり方について触れていく。

---

## 公開 SV

「異なる立場からの事例検討」

司 会 前田泰宏 奈良大学名誉教授  
事例提供者 藤枝一美 奈良大学臨床心理クリニック  
コメンテーター 東 齊彰 甲子園大学  
コメンテーター 岩壁 茂 お茶の水大学  
コメンテーター 加藤 敬 こども心身医療研究所  
コメンテーター 野末武義 明治学院大学

形式：リアルタイム，時間：14：10～16：10

---

本学会の設立趣旨の一つに、「心理的支援者の初期教育・生涯教育」がある。心理的支援の実践家が、その専門性を維持し高める努力を怠らないでいることは、生涯止まることなく続く、実践家の大切な倫理の一つである。本プログラムは、そのような趣旨に則り、「公開スーパーヴィジョン」という形式で、心理的支援者の教育や研修の場を提供することを目的に企画された。心理療法統合は、学派やアプローチ間の境界を越えて、異なるアプローチの考えや学びにオープンであることや、多数の「真実」または「現実」の共存に焦点を当て、柔軟にアプローチすることに特徴がある。

今回は、このような同じ心理療法統合の観点を共有しつつも、そのアプローチにおいて立場が異なる4名の実践家/研究者がコメンテーターとして、事例提供者の事例についてコメント/スーパーヴィジョンを行う。事例提供者と各コメンテーターとの対話を通して、治療的な変化に関わるさまざまな要因やプロセスについての実践的な示唆が得られるだろう。また、参加者の皆様と事例提供者およびコメンテーターとのオープンな対話/ディスカッションを通して、事例の理解がさらに深まり、心理療法統合の意義について考える機会になることを期待したい。

---

---

## シンポジウム

司 会 巢黒慎太郎 一般財団法人住友病院  
シンポジスト 吉岡千波 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院  
シンポジスト 杉原保史 京都大学  
シンポジスト 杉山 崇 神奈川大学  
指定討論者 加藤 敬 こども心身医療研究所  
指定討論者 沢宮容子 筑波大学

形式：オンデマンド+リアルタイム，時間：16：20～18：20

---

### 「医療領域における統合的アプローチ」

吉岡千波 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院

私の所属する病院においては、幸いなことに心理療法の治療構造として比較的安定した場所や時間は確保されている。しかし総合病院であるので来院されるクライアントは、投薬はさほど必要ないが心理療法を求めてこられる方、向精神薬が必要な方、精神的にはそこそこ健康だが重い身体的疾患を抱える方など実にさまざまである。

そのようなクライアントに対応するためには、病態水準を念頭に、精神分析的心理療法（力動的心理療法）のほか、時には行動療法、認知行動療法、ソリューション・フォーカストアプローチなどを、クライアントの“今ここ”での状態、面接の進み具合、関係性を常に観察しながら関わっていくことが有効である経験をしている。またどういった理論をベースにするにしても、クライアントとの関係性（信頼関係）の構築なくしては行えないことも痛感している。

今回は具体的な事例をあげ、関係性の構築と、様々な視点からのアプローチによる面接過程をご紹介します。

---

---

「教育領域における統合的アプローチ：学生相談の現場から」

杉原保史 京都大学

私は訓練機関において心理力動的な心理療法を学んだ。しかしどの心理療法であれ、単一の心理療法では、臨床現場の多様で複雑なニーズに応えることができない。そのため、私は現場に出て、戸惑いながら、多様な心理援助を模索することとなった。教育領域の中でも、私のメイン・フィールドは大学における学生相談なので、この領域における私の経験について話題提供する。

学生相談における心理援助は、訓練機関における心理援助とは、その心理援助が置かれている文脈がかなり異なっている。そのため、クライアントから引き出される期待やニーズが異なってくるし、設置者がカウンセラーに寄せる期待やニーズも異なってくる。学生相談の現場に着任した当初は、こうした期待やニーズの違いに戸惑い、訓練機関で指導されてきた通りの実践をしようとして、戸惑うことを多く経験した。学生相談の現場におけるクライアントの期待やニーズを理解し、柔軟に対応することで、むしろ援助の効果が高まることを実感した。そうした取り組みの中で、心理療法の多様な技法をクライアントに合わせて選択して用いるようになっただけでなく、心理療法とは異なった種類の様々な支援についても可能な範囲で応じるようになった。こうした現場の要請が、統合的アプローチへの後押しとなったことは間違いない。

---

---

「産業領域における統合的アプローチ」

杉山 崇 神奈川大学

心の原点とは何でしょうか？進化心理学的な答えの一つは、5億年前のご先祖が獲得した恐怖という感情です。この働きで私たちは心の痛みを持つことになりましたが、環境に対応できるようになり、生存と生殖の競争で有利になりました。つまり、心とは環境に反応するために獲得したものなのです。環境が整わなければ、心も整いません。

私は人の日々の暮らしや営みを愛し、支える心理職で在りたいと思っています。そこで、まさに「仕事」という日々の営みや暮らしを見守る事ができる、産業領域における心理支援に関わることになりました。その醍醐味は、人々がそれぞれに役割の中で、異なる文脈（物語）を生きて、その文脈のぶつかり合いや葛藤というドラマが展開されるにあります。

また、産業領域ではみんな何らかのシステムに組み込まれ、そのシステムで機能できるように自分をカスタマイズし、それぞれの文脈を全力で生きています。そこを読み取りながらの心理支援ですので、定式化された方法論は通用しません。これはこの領域の難しさとも言えるかもしれませんが、私の場合はその中で必然的に文脈主義を強調する同化的統合を志向するようになりました。

当日は統合を手がかりに産業領域の醍醐味と難しさを議論できれば幸いです。

---

---

## ワークショップ1

「ポール・ワクテルによる心理療法統合：

循環的心理力動アプローチ（統合的關係心理療法）」

杉原保史

形式：オンデマンド+リアルタイム，時間：10：00～11：30

---

私は大学・大学院で心理力動的な心理療法を学び、ずっと実践していたが、30代のおわりごろにポール・ワクテルの著作に出会い、2002年、41歳の時に『心理療法の統合を求めて：精神分析・行動療法・家族療法』の翻訳を刊行した。ポール・ワクテルの考えは、それ以来、私の心理療法の考え方の揺るぎない基礎となっている。

彼の提唱する循環的心理力動アプローチは、心理力動的な心理療法をベースに、行動療法、システム論的心理療法、体験的心理療法の要素を取り入れた統合的な心理療法である。今回の1時間ほどの講義ではこのアプローチの全体像を十分に説明することはできないが、その最も重要なポイントをコンパクトにお話ししたい。このアプローチでは、心理力動的な心理療法における介入の中心である解釈を、行動療法におけるエクスプロージャーの働きをするものとして捉える。また、内的・外的という区別をあくまで便宜的なものとして捉え、内的・主観的なものが、外的現実としての対人相互作用によって形成され、また逆にそれを形成し、システム的に共発展するという見方をする。このアプローチはそれ自体で有力であり、学ぶ価値のあるものだが、このアプローチを伝えることを通して、心理療法の統合を求めるポール・ワクテルの姿勢を伝えられたらと思う。

---

---

## ワークショップ 2

「技法折衷アプローチの方法と実際」

東 齊彰 甲子園大学

形式：オンデマンド+リアルタイム，時間：12：40～14：10

---

統合・折衷的心理療法の中でも技法折衷アプローチは、その名の通り各種心理療法の概念や理論にこだわることなく、精緻なアセスメントの元でクライアントが持つ問題に有効に作用すると考えられる技法を組み合わせる使用立場を指す。一般に誤解されているように、ある技法を用いて介入しても効果が得られないと次いで他の技法を用いる、といった行き当たりばったりの介入をするのではなく、当該の技法折衷アプローチの方法論に適合するように綿密なアセスメントを行い、用いようとする技法の有効性を確認できるようにしつつ介入していくことになる。

技法折衷アプローチはそれ自体が一つの方法というわけではなく様々な種類のものがあり、ここでは3つの方法を紹介する。まず Lazarus が提唱したマルチモード療法では、アセスメントにおいてクライアントの問題を行動、感情、感覚、イメージ、認知、対人関係、薬物／生物学的要因の7つのモードに分け、それぞれのモードの問題を細密にアセスメントし、モードごとにその問題に応じた技法を選択し適用する。次に Beutler の系統的折衷療法では、クライアントの不応答の要因を“問題の強さ”、“複雑さ”、“抵抗のレベル”、“対処スタイル”に分け、それぞれの要因をアセスメントした結果に対して、認知的技法や行動的技法などの各種技法を適用する。最後に演者のオリジナルであるタイプ志向折衷療法を概説したい。

---

---

## ワークショップ3

「働く人への統合的カウンセリング―事例とワークで学ぶ、欲求・願望の汲み取り方」

杉山崇 神奈川大学

形式：オンデマンド+リアルタイム，時間：14：20～15：50

---

あらゆる心理支援のスタートは傾聴だと考えられています。ただ、無闇に聞いていれば良いわけではありません。まずは、傾聴を通して対象者の願望、欲求を理解し、その欲求の阻害（欲求不満）や葛藤、葛藤の背景を教えていただくことが重要です。そして、一緒に問題に取り組む仲間になる、すなわちラポール（同盟とも言えるような信頼関係）を築くことが必要です。

私たちはこのプロセスを心理療法／カウンセリングの「step0」と呼んでいます。同様のことは心理療法統合の共通要因アプローチでも示唆されています。それによると、クライアントの願望に共感し、受け入れることが効果的な関係構築のポイントであるされています（e.g.,前田, 2007）。この姿勢は統合的な心理療法の共有財産だと言えるでしょう。

さて、働く人とはどういう人でしょうか？個人差はあれ、みんな「仕事」「暮らし」「生活」における何らかの目的を持っています。したがって、私たち心理療法家／カウンセラーはこの目的を正しく理解して、そこにコミットメントする必要があります。言い換えれば、表現はともあれ「ご一緒に目的／願望を叶えましょう」という方向で同盟を作る必要があるのです。

このワークショップでは目的意識（欲求）を司る4種の脳に基づいた働く人の欲求の読み解き方をご一緒に考えましょう。あなたの関係構築力50%UP↑が目標です。

---

---

## 研究発表

司 会 山蔦圭輔 神川大学  
発表者 谷 千聖 立命館大学大学院  
発表者 武藤 崇 同志社大学  
発表者 佐藤修哉 長野大学  
発表者 千賀則史 同朋大学・定森恭司 “心理相談室”こころ”  
コメンテーター 杉原保史 京都大学  
コメンテーター 沢宮容子 筑波大学  
コメンテーター 巢黒慎太郎 一般財団法人住友病院  
コメンテーター 前田泰宏 奈良大学

形式：リアルタイム，時間：16：00～18：00

---

研究発表1 クライエントの被共感体験に影響を及ぼすカウンセラーの行動－模擬カウンセリング場面の映像を用いた探索的検討－

谷 千聖 立命館大学大学院

---

---

研究発表2 「認知症問題」を解決するための統合モデルを創発する：行動分析学からのアプローチ

武藤 崇 同志社大学

---

---

研究発表3 問題改善後に予防的観点から実施したコンパッションを育むワークを通じて自己像を確立していった高校生

佐藤 修哉 長野大学

---

---

研究発表4 内的世界と外的世界を共に扱う統合的アプローチ ホロニカル・アプローチ  
による心理社会的支援の可能性

千賀則史 同朋大学  
定森恭司 心理相談室”こころ”